

自称詞が人物の印象評価に与える影響

○加藤和奏¹・#長谷和久²・小野史典²

(¹山口大学大学院教育学研究科・²山口大学教育学部)

目的

自称詞とは自分自身を指し示す語である。大和田(2010)は「ワタシ」には礼儀正しい、丁寧なイメージを、「ジブン」には真面目な、あらたまったイメージを、「自身の名前」には私的な、子供っぽいイメージを持つことを明らかにしている。これまで「僕」「俺」「私」「あたし」「自身の名前」などの自称詞を用いる人物への印象を検討する研究はされてきた(e.g., 藤田他, 2017; 長田, 2009)。しかし「じぶん」については自称詞のイメージそのものを検討した研究はあるものの、「じぶん」という自称詞を用いる人物の印象を検討した研究はない。

このため本研究では、相互比較が可能なように自称詞として「じぶん」のほかに「わたし」「自身の名前」を用い、自称詞が実験参加者が持つ話し手の印象評価に与える影響を検討した。

方法

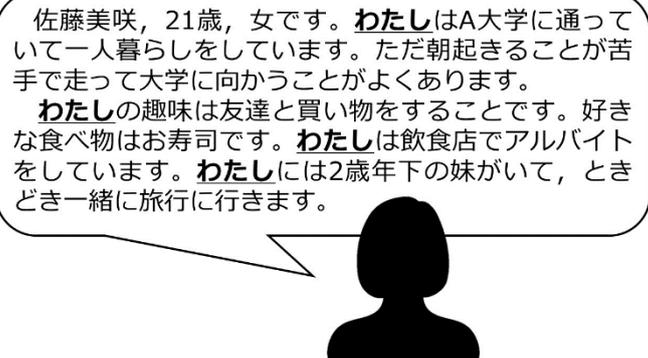
参加者 本研究にはオンライン調査会社に登録するモニタが参加した。参加者の中から注意チェック項目をパスした 167 名(男性 79 名,女性 88 名, $M=56.86,SD=12.76$)を分析対象とした。

手続き 参加者に対し図 1 のようなシナリオを提示した。下線部の自称詞は条件によって「わたし」「じぶん」「みさき」に操作した。各シナリオ提示後に話し手について信頼度, 魅力度, 幼さを測定する 6 項目に 7 件法で回答を求めた。

結果と考察

「わたし」「じぶん」「みさき」において信頼度得点, 魅力度得点, 幼さ得点に変化するかを検討するために 1 要因 3 水準の参加者内計画の分散分析を実施した。結果を表 1 に示す。分散分析の結果, 信頼度得点, 魅力度得点, 幼さ得点いずれにおいても条件間に有意差があることが明らかになった。このため, 多重比較を実施したところ, すべての条件間で有意な差が確認された。信頼度と魅力度においてはわたし>じぶん>み

図 1 提示されたシナリオの例



さきの順に得点が高く, 幼さにおいてはみさき>わたし>じぶんの順に得点が高かった。

以上の結果から, 「わたし」「じぶん」「自身の名前」の自称詞間では話し手の印象評価に与える影響に違いが生じることが示された。自称詞のイメージを検討した研究(大和田, 2010)では「ジブン」よりも「ワタシ」が大人っぽいと評価されたにも関わらず, 本研究では「じぶん」より「わたし」が幼さが高いと評価された。この違いは実験参加者に自称詞そのもののイメージを尋ねたことと, 人物の印象を尋ねたことの違いによると考えられる。また今後は人物の印象のみならず, 話し手が用いる自称詞によって発話内容の支持に及ぼす影響について検討していきたい。

表 1 各自称詞の印象評価の記述統計

	平均値 (標準偏差)			p 値
	わたし	じぶん	みさき	
信頼度	4.42(0.88)	3.75(0.94)	2.93(1.08)	$p<.001$
魅力度	3.90(0.88)	3.38(0.94)	2.99(1.12)	$p<.001$
幼さ	4.47(0.91)	4.16(0.85)	5.41(1.07)	$p<.001$

引用文献

- 大和田 智文 (2010). 社会福祉学部研究紀要, 13, 77-86
 長田 瑞恵 (2009). 日本教育心理学会第 51 回総会発表論文集, 112
 藤田政博・日置孝一・若林宏輔 (2017). 日本心理学会第 81 回大会発表論文集, 67